

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）・同西棟（同西校舎）の 国登録有形文化財への登録について

国の文化審議会（会長 宮田 亮平）は、下記の文化財建造物の登録について 11 月 20 日（金）に文部科学大臣に答申する予定です。

事前発表（資料提供） : 11 月 13 日
報道解禁 ラジオ・テレビ : 11 月 20 日 午後 5 時
新聞 : 11 月 21 日 朝刊から

記

- 名称
① とよはししみんぞくしりょうしゅうぞうしつほんどう きゅうためしょうがっこうほんこうしゃ 豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）
② とよはししみんぞくしりょうしゅうぞうしつにしどう きゅうためしょうがっこうにしこうしゃ 豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）
- 員数 2棟
- 所在の場所 愛知県豊橋市多米町字滝ノ谷 34-1-1
- 構造及び形式
①本棟 構造・形式：木造平屋建、瓦葺 建築面積：618 m² 建築年代：昭和 19 年
②西棟 構造・形式：木造平屋建、瓦葺 建築面積：312 m² 建築年代：昭和 29 年
- 所有者の氏名 豊橋市
- 所有者の住所 豊橋市今橋町 1

※豊橋市民俗資料収蔵室は、土・日・祝日（但し 12/29～1/3 除く）の午前 9 時 30 分から午後 4 時までは、一般に公開しております。本棟は内部も見学できますが、西棟の見学は外観のみでお願いします。

参考．豊橋市内の登録有形文化財

- ・ H10. 1 愛知大学旧本館（旧陸軍師団司令部庁舎）
- ・ H10. 9 豊橋市公会堂
- ・ H12. 12 羽田八幡宮社務所離れ（旧羽田野家住宅主屋）、同 蔵（旧羽田八幡宮文庫）、門（旧羽田八幡宮文庫正門）
- ・ H20. 7 湊築島弁天社
- ・ H22. 9 安久美神戸神明社本殿、同 幣殿及び拝殿、同 神楽殿、同 神庫、同 手水舎（工作物）
- ・ H25. 6 小野田家住宅主屋、同長屋門
- ・ H26. 10 西駒屋田村家住宅主屋、同土蔵

7 件 15 棟

所見（記入：あいちヘリテージマネジャー 望月昭、浅井博 監修：豊橋技術科学大学准教授 泉田英雄）
より

1. 立地

豊橋市民俗資料収蔵室（旧多米小学校）は、豊橋市多米町字滝ノ谷 34 番地の 1 の 1 に所在している。豊橋市の東部、豊橋駅からは東へ 6 km 程の位置で、北から南に向かって傾斜する山地の一部を整地した標高 47m 程の小高い場所に建つ。敷地のすぐ南側は、豊橋市街地から県境を越え静岡県湖西市へと通じる多米街道とも呼ばれる県道 4 号線が通っている。

2. 由来、沿革

豊橋市民俗資料収蔵室本棟及び西棟は、いずれも小学校の校舎として建てられた建物であり、豊橋市内に残る唯一の木造校舎となっている。旧多米小学校は、明治 34 年(1901)に多米村立多米尋常小学校としてこの地に移転して以来、昭和 16 年(1941)からは豊橋市多米国民学校、昭和 22 年(1947)からは豊橋市立多米小学校と改称し、昭和 51 年(1976) 3 月に朝倉川を挟んだ南の地に移転するまで、用地の拡張や校舎の建て替え・改修等を行いながら地域の小学校として存続した。

旧多米小学校本校舎は、これまで南側にあった校舎の老朽化のため新設が計画され、北側山部の開拓整地が終了した昭和 18 年(1943) 10 月から建設に着手し、昭和 19 年(1944) 10 月に竣工している。ちなみに、敷地の東側には二宮金次郎（尊徳）像があるが、東京の日本硬化石美術工業所に発注したもので、本校舎竣工前の昭和 19 年(1944) 1 月に除幕式を行っている。

一方、旧多米小学校西校舎は、児童数の急増に対応するため新たに建設されたのもので、昭和 29 年(1954) 3 月に地鎮祭、5 月に上棟式、7 月に使用開始の許可が下りている。また、昭和 30 年(1955)に旧本校舎の天井や床の張替工事、昭和 34 年(1959)に旧本校舎の特別教室を普通教室に変更する工事などが行われている（注 1）。

昭和 51 年(1976) 3 月に小学校が現所在地に移転すると、旧本校舎と旧西校舎の建物は民俗資料の展示や収蔵のための施設に用途変更され、昭和 53 年(1978) 5 月に豊橋市民俗資料収蔵室として開館した。旧本校舎は民俗資料収蔵室本棟として主に展示施設に、旧西校舎は民俗資料収蔵室西棟として主に収蔵施設に、それぞれ利用している。

民俗資料収蔵室として使用されてからの修理歴は、屋根瓦の補修や天井・外壁等の改修が 5～6 回程確認できる。昭和 60 年(1985)には本棟と西棟を繋いでいた渡り廊下などを撤去した。また、平成 20 年(2008)度には本棟の耐震補強工事も行っているが、全体の景観や形状を大きく変えるものではない。

3. 豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）

本棟は、敷地の中央やや北側に位置し南面する木造平屋建切妻造の建物で、玄関、廊下、展示室 A～E（旧教室）、展示室 F（旧職員室）、管理室（旧応接室・校長室）、倉庫（旧土間）、土間からなる。基礎は、外周はか一部コンクリート布基礎。規模は東西桁行 61.812m、南北梁間 9.999m（桁行 34 間、梁間 5 間半）。建物は在来軸組工法だが、現在の建築基準法（昭和 25 年(1950)）が施行される前の基準となり、展示室 A～E（旧教室）の広さ 9.09m×7.27m は昭和 18 年(1943)の（臨時日本標準規格）国民学校建物に示された教室の広さと近似している。また、資材調達に難しい戦時下にあつて努力と工夫された代用品の痕跡が見えるが、転用材は使用されておらず比較的良質な木材が用いられている。

小屋組み工法は、キングポストトラス組みで、室戸台風（昭和 9 年(1934)）後に学校建築に取り付け

が標準化された方杖が採用されている。柱材は4寸半角（桧材）を基本とし、一部に5寸角（桧材）が使用されている。軸組は竹小舞下地、土壁塗りで、当地方では学校建築においても土壁塗りが主流であった。また、間仕切りや壁などは真壁仕上げで、補強用の筋違も多く確認できる。外壁は鎧下見板張で当時の趣を残している。

屋根は棧掛瓦葺き（日本瓦、土居葺き）で、軒先は垂木現し。各部屋の出入り口や窓は木製引違ガラス戸で、大部分のガラスはフロートガラス製法以前のものである。なお、ガラス面には「タメ」という文字が刻まれており、盗難防止のため水晶で一枚一枚に大きく記したようである。

意匠と各室の変遷

展示室A～E（旧教室）…床は杉板張、本実加工。壁は真壁（土壁下地）漆喰仕上げ、腰杉板、縦張。天井はシナ合板、エンボス押さえ（昭和30年(1955)改修）。展示室CとDは、中間の仕切りが取り外せる工夫がある。展示室Eは旧音楽室で、卒業式などの儀式的時には畳敷きにでき、普段は南側に積み上げていた。昭和34年(1959)に普通教室に改修。

管理室（旧応接室）…昭和29年(1954)まで職員室、昭和30年(1955)以降校長室・応接室に改修。

展示室F（旧職員室）…当初は教室として使用、後に職員室に改修。

廊下・玄関…床は杉板張、本実加工。教室との間仕切りは腰杉板張で、採光のため欄間付引違窓が付く。出入り口や窓は引違ガラス戸で、代用品としての竹製レールや陶製戸車が見られる。天井は、シナ合板、エンボス押さえ（昭和30年(1955)改修）。

倉庫（旧土間）…現状はフローリングで、当時は土間であったと思われる。壁や天井はシナ合板塗装仕上げ（平成20年(2008)改修）。

この豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）は、用途変更による改修工事は行われているが、基本的な構造や意匠の変更は無く当時の姿が良く保存されている。また、多米地区周辺の歴史的景観を構成しており、登録文化財として保存すべき建造物であり、登録有形文化財登録基準(平成8年文部省告示第152号)の「一 国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当するものと考えられる。

4. 豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）

西棟は、敷地の西側に位置し東面する木造平屋建切妻造の建物で、土間、収蔵室3室（旧理科室、旧教室2室）、廊下、出窓からなる。基礎は、コンクリート布基礎。規模は南北桁行33.633m、東西梁間9.090m（桁行18間半、梁間5間）で、出窓は5.454m×0.41mが東側に3か所付く。出窓や縦長の嵌め殺し窓が付くなど洋風的な意匠で、当時ではモダンな学校建築であったと思われる。柱材は5寸角（桧材）で、軸組の構成は梁間方向には妻壁、間仕切り壁とも防火間仕切りのためか土壁塗りとし、桁方向には土壁塗りは見られない。小屋組みはキングポストラス組みで、金物に三角座金が使われるなど、旧西校舎より10年前竣工の旧本校舎に比べ仕様や技術的な進展が見られる。

屋根は棧掛瓦葺き（日本瓦・土居葺き）で、軒先は箱庇が出窓を取り込んだ洋風的な学校建築となる。外壁は、窓上まで鎧下見板張で、上部木摺り下地、色モルタル掻き落とし仕上げとなる。壁や間仕切りは大壁仕上げ、出窓は縦長角格子の引違ガラス戸で、出入り口を思わせる縦長の嵌め殺し窓が出窓の間に収まる。

意匠と各室の変遷

床は無垢タモフローリング張、壁は腰壁、横板張り塗装、木摺り下地漆喰塗りで、天井は棹組ラワン合板張塗装仕上げとなる。

収蔵室C（旧教室）…普通教室から特別教室に改修。廊下部分の間仕切りを撤去し、廊下を取り込む広

さとする（昭和 34 年(1959)改修）。

この豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）は、収蔵室に変更されているが、収蔵用の棚は独立し基本的な構造や意匠の変更は無い。当時の姿が良く保存され、また多米地区周辺の歴史的景観を構成しており、登録文化財として保存すべき建造物であり、登録有形文化財登録基準(平成 8 年文部省告示第 152 号)の「一 国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当するものと考えられる。

注 1：校舎の設計は豊橋市役所建築部門が行ったものと推測されるが、原図等は所在しない。また小屋裏を確認したが棟札は無い。なお、現多米小学校に「学校日誌」が残されており、校舎の地鎮祭・棟上げ・竣工式などの記録が確認できる。建築や改修の年代について、「学校日誌」に基づいて『多米小創立 100 年記念誌』が記されているため、これを参考とした。

- 参考資料 1) 豊橋市立多米小学校『多米小創立 100 年記念誌』（昭和 52 年）
2) 菅野誠・佐藤譲『日本の学校建築』（昭和 58 年）



豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）外観



豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）内部 展示室（旧教室）



豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）外観